

令和 6 年度 こども園（保育園）関係者評価
園評価・評価委員最終評価シート
子育てセンターひだまり

こども園（保育園）関係者評価委員会による評価

対象評価： 最終評価

評価日時： 令和 7 年 2 月 19 日 13:30 ～ 15:00 （ ミーティングルーム ）

【こども園（保育園）関係者評価委員会構成】

学識委員 2 名 地域委員 2 名 保護者委員 2 名

【園の教育・保育目標】

自己肯定感・貢献感・感謝の気持ちを育む
いきいきと活動できる子・おもいやりのある子・ありがとうの気持ちを表せる子

【本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した
こども園（保育園）評価の具体的な目標や計画】

人と関わる心を育む
～様々な友だちとの関わりの中で、自分の思いを伝え相手の
思いを聞いてみよう～
(テーマ) みんなの わ ～つながる場所ひだまり～

【評価基準について】

- 4・・・十分に達成されていた
- 3・・・ほぼ達成されていた
- 2・・・取り組みは見られるが達成が十分ではない
- 1・・・取り組みが不十分であった

項目	園評価		評価委員最終評価	
	評価	評価理由	評価	評価理由（評価委員から）
I. 目標の理解 1. グランドデザインを理解している 2. グランドデザインを意識している 3. 重点目標を意識している 4. 重点目標を意識して取り組んでいる	4	会議等でグランドデザインや重点目標を全職員に周知し、教育・保育に反映されるように意識して取り組めた。 子どもの姿に合わせて思いを聞いたり、伝えたり、伝え合ったりできるように生活、活動で工夫をしている。 他クラスや異年齢での関わりを経験できるよう、活動や生活を工夫し、自然と子ども同士で関わりを深めている姿が見られた。 地域の方との関りは園内外での活動を通して交流を持てるよう計画・実践を行えた。	4	・職員が意識して活動の環境や声掛けを行っていることがよく分かった。 ・重点目標のテーマの和・異年齢・地域とのかかわりが押さえられ実践されている。 ・職員はグランドデザインを周知されている。 ・子どもからは異年齢の友達の名前が聞かれ、様々な子と関わり、憧れや思いやりの気持ちが育まれている。
II. 教育・保育の計画性と内容 1. 指導計画の作成 2. 環境への配慮 3. 教育・保育活動の実践 4. 計画と実践の評価・反省	3	クラス内での話し合いは時間を見つけて、計画、反省がされているが、学年間、他クラス間の話し合いを設ける時間が無かったため、共有がうまくされず、連携をうまくとることが出来なかった。 計画性を持って活動を進めていけるように、フロアリーダーを中心にした、他クラス連携を深めていけるよう、話し合いの持ち方等の工夫が必要である。	4	・年上の子が年下の子を気遣う姿が見られていた。 ・ガイドラインの項目が多く、これらを実行していく事で、子ども同士の関りについて育ちが保証されている。 ・絵本から園外活動、壁面へと、つながりのある活動が感じられる。 ・子ども一人一人が体の動きを楽しみながらリズム運動を行う姿は、日頃の職員の関わりがあるからこそであると感じる。

Ⅲ. 子どもにとっては 1. その子らしさが認められる 2. ゆったりとした生活 3. 自然に触れて心ゆくまで遊ぶ 4. いろいろな人の中で自分を知る	3	子ども達が選ぶ、決める、進めるといった、主体性のある活動を計画し、実践ができた。しかし活動や行事によっては主体的な活動が進められない事もあった。また活動や行事等の間際での計画となり、職員教育・保育の余裕がなくなり、子どもたちにとってゆったりとした環境が整っていない事もあった。職員間で人的環境、物的環境について再度学び、考え、実践していく事が今後の課題である。	4	・自分で決めたことに子どもなりに責任をもってやろうという意識が子どものなかにもあり、それらを意識した子どもとの職員の関りが感じられている。 ・子どもが自分で決める場面を各所に職員は設けてくれている。個性豊かな面を主体性を持ってサポートされている実感が得られた。子どもの様子や気持ちに合わせて、関わろうとする職員の姿があり、安心して預けられている。
Ⅳ. ファミリーにとっては 1. 気軽に相談できる 2. いつでも保育に参加できる 3. 必要な情報が得られる 4. 保育を通して地域に親しむ	3	保護者の方にとって月のおたよりや週案など、情報手段がたくさんあるため、分かりにくさがあった。集約されたものを月のおたより等に一度に提示できるように工夫が必要である。保護者の方へのタイムリーな情報共有が課題である。おたよりやブログ等を配信した際には、玄関や廊下等に情報の共有をしたい。接遇マナーについて保護者の方からご意見を頂いている。保護者の方が安心して声を掛け、相談ができるように、挨拶や言葉使い等丁寧な関わり方が課題である。	4	・利用者満足度調査の実施自体が保護者の方が本音を伝えられる機会となっている。 ・評価委員から見て、参観会時等で来園した際、園の雰囲気が良いと感じるので、保護者の方も園の雰囲気の良さを感じていると思う。 ・子どもの様子や気持ちに合わせて、関わろうとする職員の姿があり、安心して預けられている。
Ⅴ. 地域にとっては 1. 誰でも親しく訪ねられる 2. 園の内容がよくわかる 3. 緊急の時頼りになる 4. 子育てに夢がもてるように	4	「子育て支援センターおひさま」の看板設置を行い、地域の方に支援センターの場所を知っていただきやすくなった。支援センターの職員を中心に、他職種と連携をし、地域の子育て世帯の様々なニーズに沿った講座を開催した。中でも妊婦支援の講座は毎月開催をするともに、母親だけでなく、父親を対象とした講座を開催し、子育てに悩む地域の方が頼りになる園になっている。	4	・子育て支援センターでは、地域の母親や親子への支援の充実のため、様々な取り組みをされており、色々なニーズに対応されている。 ・父親を対象にした講座を開くことで、支援センターで父親が交流をし、意見交換等の話ができることはとても貴重である。講座内では母親の妊娠出産期を改めて学べる場を設けて下さり、父親は家族にとってどんな存在かを感じる機会となっていた。
Ⅵ. スタッフにとっては 1. 個性が生かされる 2. 快適な職場づくり 3. 生活や遊びの文化が伝えられる 4. 視野を広げて自ら学ぶ	3	職員一人一人の個性が、教育・保育に活かされ、力が発揮された。職員間のコミュニケーションを取る十分な時間の確保が難しく、報連相の意識が不足していることもあり、職員間の連携が持ちにくい雰囲気がある。職員同士が協力をし、働きやすい職場作りのために、クラス内だけでなく他クラス、他学年のコミュニケーションを密にし、助け合える形や関係性を築けるためにどうすればよいのか、職員と話し合いを進めている。	4	・若い職員が長く勤められる職場環境を作っていってほしい。 ・保育の質を高める研修の場を持ってほしい。 ・職員がゆとりのある生活を送れることで教育・保育にもゆとりが持てるものになってくる。そのため職員自身の生活も大切にしながら仕事も楽しめ、未来には自分自身の育児も楽しめる、そんな風に若い職員を大事にされた職場になっていくとよい。